



第82巻 第2号
年4回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田3-15-2
TEL 03-3387-5567
http://www.jiseikai.jp
振替口座 ベタニアの家
00170-6-15317

より信頼される施設へ・・・

中村 英男

「ベタニアホーム」定員変更へ
現在、定員数がホーム八十名、ショールーム約三年間を経過し、昨年、コロナ禍約三年間を経過し、昨年、ホームの利用者四十名、職員二十名が感染し、大変な思いをしましたが、ホームの利用率に関してはコロナ禍以前とさほど変わりがない状況でした。ただ、ショールームに関しては、在宅から利用されるということ、ホーム利用者と同じエリアで過ごすベタニアホームの場合、感染予防から、受け入れは自粛ムードになってしまい、利用率は三年間平均で約四割程度になってしまいました。したがって、ショールームステイに関しては収入的に大きなダメージを受けました。一度離れた利用者はすぐには戻ってきてくれません。また、コロナが落ち着いたとしても、他の感染症流行の可能性もあります。ショールーム専用エリアがないベタニアホームでは、今までのようなサービスを提供するのは難しいと考え、定員数を減らし、ホームの定員数を増やすことで安定した収入を得られることで将来的に安定した事業の継続を図

りたいと思っています。具体的にはホーム利用者定員八十四名、ショールーム四名に変更いたします。
「デイホーム月」休止へ
ベタニアデイホームは昨年度まで、

デイホーム屋(認知症対応型・定員十二名)、デイホーム月(一般型・定員十名)で運営しておりました。一般型のデイは平均七割程度の利用率をキープしていましたが、少人数のため、一人当たりの単価が低い、必要な配置職員数はデイホーム屋と変わらないなど、事業を継続すればするだけ赤字の額が大きくなり、そのため事業の継続が難しくなり、やむなく昨年度末で中野区、練馬区へ休止届を出すことになりました。

平成二十六年九月から、一般型通所介護として指定を受け、八年間、地域の要支援高齢者(一人暮らしで生活の一部に支援が必要な方、高齢者世帯で生活に支援が必要な方等)の「憩いの場所」として親しまれてきましたが、通われた方たちには大変申し訳なく思っております。今年度からは、認知症専門のデイサービスとして、地域で生活する認知症状態で困っているご本人、ご家族へ安心・安全に日中過ごしていただける居場所を提供し、楽しく通い続けることで認知症状の改善につながればと思っ

ています。また、地域のケアマネジャーさんと顔の見える関係を作ることにより、ベタニアデイホームをアピールしていきます。

「ケアハウス慈しみの家」

ケアハウス(定員二十九名)は大きな変化はないのですが、創設二十五年目を迎え、入居者の方たちもそれなりに年齢を重ね、自立した生活ができない方、何らかの生活支援が必要な方が増えてきました。三月末時点で介護保険の認定を受けて、ヘルパーさんや訪問看護、デイサービスをj利用されている方が約四割になってきています。また、今後に不安を抱いている方も多く、特に親族が身近にいない方は後見人制度の利用を考えている方もいます。入居者の方、一人ひとりそれぞれに課題は違いますが、できる限りケアハウスで自立した生活が送れるように支援していきたいと思っています。

以上、ベタニアホーム、デイホーム、ケアハウスの現状を紹介いたしました。

近い将来、人口の二十%が後期高齢者になるといわれています。要介護の高齢者は確実に増えてきます。財政難と慢性的人手不足の課題はありますが、職員皆で工夫しながら、社会のニーズに応え、より信頼される施設を目指していきます。また、法人内の聖ヨゼフ老人ホーム、聖家族ホームと連携を深めながら、「一緒に」に取り組みればと思っております。どうぞ温かく見守ってください。宜しくお願いいたします。

(中野トータルサポートセンター 副センター長)

ベタニアの家 永年勤続表彰者

(三十年表彰)

ナザレットの家 榎原 範子
ナザレットの家 諸橋亜矢子

(二十年表彰)

ベタニアホーム 福田 洋子
ベタニアホーム 中澤 栄理
ベタニアホーム 永崎 亮平
ベタニアホーム 橋本 景子
訪問看護ステーション 富永 健
マ・メゾン光星 早乙女 智

(十年表彰)

ベタニア(ルバーン)ステーション 富山 裕子
ベタニアホーム 田極 明裕
ベタニアホーム 荒川 和代
聖ヨゼフ老人ホーム 小林 千草
ベトレヘム学園 落合希代子
ベトレヘム学園 倉石 麻里
ベトレヘム学園 荒城 貴広
ベトレヘム学園 高橋 翔太
ナザレットの家 石井 賢治
ナザレットの家 岸本 規秀
ベトレヘムの園病院 大谷佐江子
マ・メゾン光星 菅野ひとみ
マ・メゾン光星 大賀 翔平

ベトレヘムの園病院におけるSDGsの視点を活用した組織運営―より良い世界づくりへの貢献―

菊池 誠

SDGsは国連が提唱した二〇三〇年までに世界が取り組まねばならない「貧困」「平等」「健康と福祉」「気候変動」などの課題を一七の目標とそれに紐づけられた一六九のターゲットで示した目標群です。当院では毎年の事業計画にこのSDGsの視点を活用する試みを一昨年度から始めました。

皆さんご存じの通り、SDGsの一七の目標には、貧困・平等・健康・福祉など社会福祉法人の事業活動に親和性の高い内容が数多く盛り込まれています。そして、気候変動や環境問題、男女平等も、事業体として取り組まねばならない重要な課題です。この世界の一事業体として、ここで働くすべての職員が自分たちの足元のことだけでなく、世界に目を向けて業務に取り組む視点は、きっと私たちの仕事の幅を広げるものと考ええます。

今年度の具体的な取組を紹介いたします。ベトレヘムの園病院では、生活困窮者への積極的な医療・福祉の提供として「無料低額診療」に力を入れています。これはSDGsの目標の一「貧困をなくそう」と目標の

三「すべての人に健康と福祉を」と密接な関係があります。昨年度当院を利用された全患者のおよそ二二%がこの無料低額診療事業の対象となりました。これは大変大きな成果です。今年度は、この実績を上回る二二%を目指します。

二つ目は、男女平等の観点に立った女性管理職の登用です。これは目標の一〇「人や国の不平等をなくそう」に当てはまります。現在、当院の女性管理職の比率は七〇%を超えています。この成果を女性の視点を活かした、働きやすい職場環境づくりに繋げていきます。

三つ目は、業務を通して排出する廃棄物の削減です。最近ではコロナ禍でむしろ増加傾向にある感染性廃棄物の排出量を採用品目の整理統合やエビデンスに基づいた合理的な使用方法に逐次見直すことで、今年度は三%の削減を目指します。

四つ目は、一昨年度に実現した使用電力の一〇〇%再生可能エネルギーへの転換によるCO2排出量の削減です。これは目標の一三「気候変動に具体的な対策を」に該当します。今年度は昨年度と同レベルの二〇〇トンのCO2排出量削減を目指します。私たちが日々取り組んでいる目標が実はより良い世界づくりにも貢献していると実感できることで、仕事における視野が格段に広がると考えます。

このSDGsを組織運営に活用するときに大切なのは、必ず成果を数値で評価することです。成果を過去・現在・未来と経時的に数値で「見える化」することにより、自分たちの努力の軌跡を共有し、更に頑張ろうという機運を創り出します。

医療や福祉の世界に数値目標を採り入れることには心理的抵抗があるかもしれませんが、「寄り添う」や「温かい医療・ケア」といった定性的な表現だけでは、実際の取組の成果を客観的に評価することは困難です。寄り添うこととは何か、何をすれば温かい医療・ケアと感じて頂けるか、これらを定量化できなければ、具体的な改善には繋がりません。数値で評価することで、私たち職員は自分たちの「現在地」を共有できません。何が出来ていて、何が出来ていないのか、この認識において、職員間にズレが生じないことが、組織が向かうべきベクトルを合わせるための大前提となります。



コロナ禍が社会を襲ったこの三年余りの間、私たち医療・福祉を担う施設はこれまで以上に幅広く、多様な役割を求められました。日々刻々と変わる状況のなかで、求められることすべてに対応できるわけではありませんが、広い視野で自分たちの強みと弱みをしっかり分析し、良い部分は更に伸ばし、弱い部分は補強する、こうした坂道を一步一步踏みしめて歩くような不断の努力なくして、良い医療・ケアの提供は叶わないと考えます。

まだまだ試行錯誤の連続ですが、これからもベトレヘムの園病院ではSDGsの視点を活かした組織運営により、この地域で求められる医療・ケアの提供を通じて、より良い世界づくりの一翼を担っていきたく思います。

最後に、こうした取組により得られた最大の成果、それは職員の離職率の大幅な改善です。数年前までは二五%近くで推移していましたが、昨年度は約九%にまで低減させることが出来ました。

日々の仕事は大変でも信頼できる仲間がいつも隣にいる、そして支えてくれている。目指してきた組織のカタチがようやくはつきり見えてきた、今そう感じています。

(ベトレヘムの園病院 事務部長)

離れていても共にいる
— WiFi環境の整備 —

杉山 智和

マ・メゾン光星は、令和四年一月から三月、令和五年一月の二回、新型コロナウイルスによる集団感染を経験しました。感染症が発生すると、隔離棟(レッドゾーン)はもとより、通常生活エリア(グリーンゾーン)も最終感染者が解除されるまでの間、他の部署との行き来が出来なくなります。職員はその期間、急な対応に戸惑いつつも、状況に適応するように努めました。一方、入所されているご利用者にとっては、日常から一転、隔離生活に伴う高ストレス状態が長期に及ぶことになり、精神的にも身体的にも苦しい状況だったと思います。

この期間は集団感染という非常時につき、対面での朝礼は行えず、内線、館内放送、連絡用紙といった情報伝達手段に限られました。そのため、情報が時間差のある断片的なものになり、日を追うごとに互いの意図が伝わらず、業務上のストレスが高まってきました。エリア間の情報共有、繋がりを持てることの難しさを思い知らされた出来事でした。現在、新型コロナウイルス感染症は5類に移行し、法的な制限はやわらぎました。しかし、根絶されたわけではなく、その他の感染症も含め、対策は必須です。

感染終息後の振り返りに対して、情報共有に対する課題について職員間で意見を出し合い、検討を重ねました。その結果、当施設では、館内にWiFi環境を整え、各部署にタブレットを配布することになりました。これにより、ネットワーク上でリアルタイムに会話が出来ようになり、表情を含めたその場の「空気」、エリア間の最新の情報把握が可能となりました。今までよりも、お互いが「離れていても共にいる、一緒に乗り切っていこう!」という気持ちで伝え合えるようになるのではと思います。

そしてこのツールは、緊急時に限らず、リモートミサ配信、夜勤者間で映像による情報共有、部署に残る職員の会議や委員会等へのリモート参加、遠方の保護者様とのリモート面会、エスポワールやフルール等、地域に展開した事業所との情報共有等々、様々な場面に活かす事が出来るツールです。これらを上手に活用し、マ・メゾン光星の日常が今より一層充実していくよう、皆で知恵を出し合っていきたいと思えます。

(マ・メゾン光星 主任)



ミサ リモート配信中



ミサ リモート参加

令和4年度決算報告

法人全体の貸借対照表の要旨 (令和5年3月31日現在) 単位:千円

資産の部		負債・純資産の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	1,983,156	流動負債	380,929
固定資産	6,949,739	固定負債	789,156
基本財産	3,334,255	負債合計	1,170,085
その他の固定資産	3,615,484	基本金	1,630,347
		国庫補助金特別積立金	1,323,307
		その他の積立金	2,478,219
		次期繰越活動収支差額	2,330,937
		純資産合計	7,762,810
資産の部合計	8,932,895	負債・純資産の部合計	8,932,895

社会福祉法人 慈生会
令和4年度 決算報告

六月七日の理事会および六月二十二日の評議員会で、令和4年度の決算が承認されましたので、その要旨を報告いたします。

事業活動計算書の要旨 (令和4年4月1日~令和5年3月31日) 単位:千円

事業区分	収入	支出	差額
社会福祉事業区分	3,895,750	3,851,014	44,736
公益事業区分	173,821	163,051	10,770
収益事業区分	0	0	0

資金収支計算書の要旨 (令和4年4月1日~令和5年3月31日) 単位:千円

事業区分	収入	支出	差額
社会福祉事業区分	4,069,701	4,235,909	-166,208
公益事業区分	179,056	170,911	8,145
収益事業区分	0	0	0

財産目録の要旨 (令和5年3月31日現在) 単位:千円

区分	金額
資産の部	8,932,895
基本財産土地	(592,717)
基本財産建物	(2,741,538)
負債の部	1,170,085
差引純資産	7,762,810



SDGsが目標にしている二〇三〇年までの一七の目標には、より具体的な一六九のターゲットが示されています。今回は目標6「安全な水とトイレを世界中に」のターゲット6の3「未処理の排水の割合の半減と安全な再利用で水質を改善する」を身近なところから見てみます。

以前、東南アジアでの体験学習で、雨期の雨水を溜めて飲料水にする様子を見、空気中の種々の埃や人体に害を及ぼす危険因子を多量に含んでいて危険だと思いました。



日本では上下水道設備が整い、安全で安定した水の利用に事欠きません。水は、空↓地上↑海をめぐって使いまわせる持続可能な資源です。わが修道院では水の汚染を減らして下水に流すよう必ずフライパンや食事後の食器汚れ、油分は古布でふき取

り、手作りのEM活性液(乳酸菌や酵母、光合成細菌を米のとき汁液で発酵させたもの)で洗っています。台所の造りが業務用タイプのため、汚れた水は下水管に流れる前にシンク下にある写真の「グリストラップ」(飲食店の厨房にあるような排水に含まれる生ゴミや油脂などを取り除く装置)に貯まります。油分は固まって浮き、臭気を発するので定期清掃が必要です。その際、かがみ込んで中に貯まった汚染水や汚泥を掻き出し、周りにこびりついた油分の拭き取りが大変ですが、私たちにできるSDGsの一つと思い頑張っています。

修道院からほど近い所にこのグリストラップの大型版、東京都の水再生センター(下水処理場)の一つがあります。ここに下水が集められ、沈殿槽や微生物と空気を混ぜて汚れを分解させる処理槽などを通してきれいになった水を川に放水しています。ふと、福島原発の処理水を海洋放出する課題が頭に浮かびました。

日本のみならず世界で起こる地震や戦争の被災地、貧しい地域では、人間の生存に不可欠な清潔な水に事欠き、水に関連する疾病で多くの命が失われています。私達は安全な水に恵まれていることに感謝し、水を汚さない小さな工夫を続け、困難な状況にある人々と繋がりをもち続けていきたいと思っています。

(記・Sr坂井 みき)



日常の子どもたちの微笑ましい様子や、ほっとした出来事などを出し「にやりほっと」として共有する取り組みをしています。ある日の出来事を紹介します。『おやつメニューを紹介します。』『おやつメニューを食べていた幼児さん。食べていると反対側からクリームが出てきたので職員が〇〇ちゃん、おしりからクリーム出ているよ。と伝えると、あわてて自分のおしりを確認している可愛い〇〇ちゃんでした』継続して取り組んでいきたいです。

(関 広宣)

新型コロナが5類に移行され、久しぶりに親族と直接会い交流できるようになりました。親族でさえ、この3年間、互いが何を想いどう過ごしてきたのか、顔を合わせて初めて心に入ってきます。なので、職場や友人など、交流できなかった方々とは、コロナ以前よりも大切に、時間をかけて互いの関係を取り戻していきたいと思う今日この頃です。

(杉山 智和)

環境月間の六月に合わせて、四年前から慈生会の各施設と東星学園に、修道会から啓蒙ボスターを環境省のものも利用しながら配らせて頂いています。今年は、目の前にある環境危機は地球環境の危機ではなく、私たちの生き方の危機であって、調和ある豊かな地球を次世代に渡すために、節水・節電にもまして私たちの「節欲」を呼びかける絵柄でした。へより少ないことは、より豊かなこと。古来からの教訓をちょっと立ち止まって唱え、考えてみてはどうでしょう。(回勅『ラウダート・シ』二二二〜二二三項)

(Sr中野 利恵)

ご寄付のお礼と報告

瑠璃草4月号をお送りする際、ご寄付のお願いを同封させていただき、25件 50万9千円のご寄付がありました。個々のご寄付のほか、温かい励ましのお言葉も多数いただいております。

このようご厚意に対し、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

ご寄付は大切に福祉事業発展のために使用させていただきます。これからも全職員が一丸となって、安心、安全なケアを提供できるよう、努めてまいります。

ベタニアの家 代表 田代嘉子